

# 丸山湿原群保全の会会報

(第 135 号)

発行日：2018 年（H30）10 月 24 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会  
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内  
TEL/Fax0797-91-1788  
090 - 1895 - 8061（今住）

E-mail：[maruyamashitugengun@gmail.com](mailto:maruyamashitugengun@gmail.com)

早いもので 10 月も末になりました。9 月の長雨と台風。案の定、米の収穫は皆さん（私も含め）苦勞されていたようです。機械（コンバイン）が使えなくなるような湿田状態。やはり最後は手刈り！少しでも人の助けがあると意外にうまく進むものです。

昔は共同作業。お互いの田んぼを手伝う。現代のライフスタイルにはマッチしていませんが、実は心の豊かさを含む効率的な活動だったのかもしれない。

今年の（も？）天候は農作物にも影響が多々出ています。米の高温障害や発芽粒。黒豆の超不作。黒豆は、花が咲く時期に台風が来て受粉がうまくいかなかったためともいわれています。今は枝豆ですが、お正月の黒豆も値が吊り上がるかもしれません。

(今住 10 月 23 日作成)

## 活動報告 ★9 月 23 日（日）定期活動 9 名で活動 曇り ササ刈り作業

第 1 湿原のササが残っています。この作業を優先して行いました。昨年オオスズメバチ（雄？）が多く飛んでいた付近です。参加者も 9 名いて、短い時間ですが、第 2 湿原へ向かう側のササはかなり処理できたと思います。ササは刈り取ってもすぐ再生とっていましたが、意外に効果が出てきているのか、昨年刈り取った場所は高さも低くひ弱になっています。やはり継続が大切なのでしょうね。



いつものササ刈り

くるとさらにいうことなし。猪が掘り荒らしたところは水たまりになっています。地下水位は十分高い！期待が膨らみます。

しかし何度も言ってますが、刈り取り後の運び出しが辛い！ご協力を！



毎回辛い運び出し

この日は長雨の影響かキノコがたっぷりで見受けられました。夏場雨が少なく、また高温だったせいか菌従属栄養植物（ヒナノシャクジョウ・ホンゴウソウなど）は不作だったようですが、ここへきて菌類が大はしゃぎ！**マツタケ（松茸）**が出ればいいのですが残念ながら松が壊滅状態。ほかの**イグチ系のキノコ**や**オニタケ**などがあちこちに出ていました。ほんの数日で傷んでしまいますが（実はキノコは菌類の花に相当）色や形、匂い、感触はとても面白い。食べ

られるキノコも思っているより多いのも事実。ただし

同定が難しい。しかも「食べられる」と「美味しい」とは別物ですから…。もし食べたいのなら、よく知っている人と複数の図鑑等で確認してから食してください。ある人によれば、絶対安全なキノコはないとのこと（極端かもしれませんが）。食べすぎると無毒でも繊維質等の関係でお腹を壊すとか。まー松茸でお腹を壊してみたいものですが…。



巨大なイグチ系キノコ



シロオニタケ？

**定期活動**

★10月13日(土) 定期活動 7名で活動 (内田顧問+弟さん含む)

定期基礎調査、巡回、観察

目的	市内	市外
丸山	11	19
ハイキング	2	8
その他	1	0

来場者数 計 41 人  
(竹筒ポスト人数)

場所	時間	気温【水温】	電気伝導度 (EC)	PH
入口	10:00	21.5℃		
視点場	10:31	19.9℃		
第3湿原	10:21	【16.8℃】	33.8 $\mu$ S/cm	6.9
第1湿原	10:42	【18.6℃】	29.1 $\mu$ S/cm	6.7
第2湿原	11:01	【17.4℃】	33.7 $\mu$ S/cm	6.7

今回の活動には内田顧問も参加。昨年同時期に中学校でセミナーをして頂きました。今回は極秘の任務を携え関西に調査に来られました。(実家が神戸です)弟さんも一度丸山湿原を見てみたいということで参加されました。寡黙ですが、何かを心に秘めた志のある方の方でした。また遊びに来てください。

**【湿原の様子】**

度重なる台風の被害で旧道はボロボロ状態。これは自然遷移と考え諦めることにしましょう。発想を変えれば、環境がより多様になったと捉えることもできます。事実その水たまりなどで色々な生き物が活動を始めています。



ヨシノアザミ

季節はいよいよ秋の雰囲気です。駐車場では銀杏が見事に悪臭を醸し出し、好きな人は持ち帰って食べることを企んでおられます。**ヤマガキ(山柿)**は不作なのか実をほとんど見ません。今年は虫こぶも少ないような。やはりこれも台風の影響かもしれません。しかし**ヨシノアザミ(吉野薊)**は見事に咲いています。そこには例のごとく**ホシホウジャク(星蜂雀)**が、以前ハチドリがいると勘違いされたやつです。ハチドリは日本にはいません。スズメガの仲間。蛾です。でも名前の通り昔の人もハチのようなスズメのような、と考えたのでしょうね。胴体部分に白い模様これを星として「星蜂雀」でしょう。どちらかといえばハチに見えてしまいましたが、全くの無毒ですのでご安心を。動きが速く写真になかなか納まりません。この時期多いです。ぜひ実際に見てください。(写真が無い!)



枯れたツチアケビ

**ツチアケビ(土木通)**は最後まで倒れず、種(実)を見事に残しました。種を昆虫が食べ散布すると言っていましたが、**ごめんなさい間違いです。ツチアケビは鳥のエサとなって種を散布するそうです。菌従属栄養植物は昆虫と決めつけていました。内田顧問からの指摘で判明。調べてみるとヒヨドリやムクドリが好んで食べるようです。丸山にはムクドリは少ないのでおそらくヒヨドリがメインと思われる。**ほかの菌従属栄養植物



ツチアケビの種(実)

(ヒナノシャクジョウやギンリョウソウ)は昆虫の場合が多いようです。これもごくごく最近分かってきたことだそうです。ツチアケビの実には虫にはちょっとデカすぎると思っていました。しかし、多くの人に偉そうにレクチャーしてきました。**謹んでお詫び申し上げます。**論文(要約レポート)も出ていますので、ぜひ探してください。

湿原ですが、今年は**サワギキョウ(沢桔梗)**が本当に小さい。約20cmというところでしょうか。例年目立つものだけを見ているからなのか、1mぐらいで見事な紫色を見せてくれるのに…。これもよい機会と内田顧問に聞いてみました。水が多い所のサワギキョウは大きくなる



小さなサワギキョウ

花期が短いのですぐ終わる花です。今年がたまたまびったりだった？それとも湿原の環境変化があるのでしょうか？最近減少傾向著しい花です。休耕田や田んぼの畔など貧栄養～やや中栄養の湿地に咲きま



ウメバチソウ

RDB 指定されています。兵庫県の指定はなし。この花も氷河期残存植物といわれ、高山植物にもコウメバチソウ（ウメバチソウの高山型？）があります。まもなく開花ピークと思われる。見たい方はお急ぎください。第3湿原木道からは手に取って観察できます。とったらあかんで！

さらに第2湿原では、丸山湿原では数が少ないヤマラッキョウ（山辣蕈）も。開花前でしたが愛らしい姿を見せてくれました。もし観察されるのなら谷底ですのでご注意ください。ニホンノウサギ（日本野うさぎ）もひょっこり現れました。

秋の実も色づいてきました。いよいよ紅葉の季節の始まりです。



サルトリイバラの実



ミヤマガズミの実



シカの実？糞

ところで、内田顧問の極秘任務は何だったのでしょうか？1週間ほどかけて西谷や加西、三田あたりをウロウロされていました。彼は群集生態学のスペシャリスト。群集生態学って？私は、「ある地域の生き物の関係を丸ごと研究する学問」と解釈しています。もちろん人間もその中に入る？生態系の社会学ともいえる研究か。何か政府系のスパイの匂いも…。ないか。冗談はさておき、何か成果が出ることをお祈りいたします。今後ともよろしく願いいたします。

とのこと。そういえば今まで見てきたサワギキョウは湿原の林縁部に多く咲いていました。納得したような、そうでないような感じです。林縁部（水の少ない部分）は今もありますし…。少なくとも湿原内で見られる小さなものは水の影響なのでしょう。今年は株の栄養状態が悪くて林縁部のサワギキョウは咲かなかったのかも。来年がどうなるか、また楽しみです。

夏の終わりを告げるサワギキョウも少なくなり、秋を告げるスイラン（水蘭）・ウメバチソウ（梅鉢草）が咲いています。タイミングの問題か、今年はスイランが多く確認できました。しかも湿原の中央部に。

ランと名前が付きますがキク科の植物です。乾田化（圃場整備）が進み居場所がなくなりつつあるのでしょうか？しかし農家としては湿田での作業はつらいものがあります。

う～ん悩ましい。

ウメバチソウは昨年も説明したように花期の長い花です。皿池や網引にないとなると、丸山を代表する花ということになるのでしょうか？しかし、西谷では比較的よくみられる花です。全国では21都府県で



スイラン



ヤマラッキョウ

**環境学習** 10月17日(水) 今年は小学校・中学校ダブルヘッダー

## ★小学校フィールド学習(9:00~11:30) 丸山湿原

2学期の丸山湿原での活動です。3年生はずいぶん成長したように見えました。アクティブさはそのままに。「遊んでやる！」という感じがひしひしと伝わってきます。

いつもは駐車場付近で虫こぶの話から始まるのですが、今年は少なかったので触れる程度に。その代わりに、あまり生えてほしくないセイタカアワダチソウ(背高泡立草)のお話を少々。今は侵略的外来種といわれ嫌われているが、もともとは観賞用に人が持ち込んだこと。日本でとても強いのは、アレロパシーといわれる「いやいや」物質を根から出し、他の植物が近づけないようにしていることを説明。校長先生が怒っているとき、見ただけで近寄るのも怖いと感じる「何か」と同じ?ような物質という、納得したようなしないような…。ま〜とにかく出発!

行く道々で子どもたちは次々と発見をしていきます。まず道の溝。何気なく通りすぎるところ



興味津々「なんかおる!」



山の中のイモリ

でヤゴを発見。保護色そのものなのにすごい!オニヤンマ(鬼蜻蜒)のヤゴです。頭が角張っているのが特徴の1つ。成虫になるまで5年かかると説明。羽ができてくるので来年ぐらい成虫?5年と聞いてビビったのか元の場所に返したよう。さて次は、陸上でアカハライモリ(赤腹井守)を。イモリは普段水の中。だから「井戸を守る=井守」に。イモリの生態ですが、卵から孵ってしばらくはエラ呼吸。その後エラが取れて肺呼吸に(両生類)。水の中だけで暮らすと思いきや、3年ほど山の中で修業するそうです。そこらへんはまだ謎の部分も多いようですが。山で見つけることはまずない!私も3度めです。すごい!途中、子どもたちは川に入り、水たまりを覗き込み、葉っぱを食べ、湿原にたどり着くのか心配になりました。しかし、この興味と好奇心は持ち続けてほしいと思います。これぞ「生きる力」と私は思います。紙面の都合上今回は湿原リポートなし。ホンマにたどり着いたんでしょうか?しかし楽しかった。次は3学期。楽しみやな~!



オニヤンマのヤゴ

## ★中学校フィールド学習(13:30~15:30) 中学校近くの里山



長靴が眩しい!いいぞ中学生!

整備されています。「放棄田」や「ため池」の再生も。手仕事ではありますが確実に「里山」となりつつあるようです。そこをお借りしました。「にしたによいしょ」でも紹介されています。

サワギキョウがたくさんあって隠れ家的雰囲気です。シシ柵があるので入りにくい場所ですが、そこを開けていざ!本来人に利用されている山が「里山」であることや、ナラ枯れの原因を話して植物などを観察。全校生徒39名がジャーシ姿で、長靴を履いている子も。(奨励しました)中学生の長靴姿いいね!ちょっと感動。しかも、学年を超えて生き生きと活動してくれました。身近に素晴らしい場所があることに気づいてくれたら、と思いました。ぜひ来年も…。

**次回活動日**

10月27日(土) セミナー 10月28日(日) 11月10日(土) 11月25日(日)

※12月8日(土)「たからづか市民環境フォーラム」で活動報告決定!プレゼンは???



ナラ枯れの説明

が荒れ放題。そこを「やまもり山里」さんが最近里山再生として